



2月23日に、日本赤十字看護大学広尾ホール(東京都渋谷区)で、第9回「もっとクロス！大賞」の最終審査と表彰式が開催されました。富山県支部からは、今年度新たに設けられた「ボランティアとクロス部門」に「在宅ひとり暮らし高齢者訪問活動」をエントリーしたところ、この活動が優れたボランティア活動であると認められ、見事入賞を果たしました。

「もっとクロス！大賞」は、平成19年に立ち上げた全社プロジェクト「もっとクロス！計画」(社内でもっとクロス(連携)して、もっとレッドクロス(赤十字)にかかわる人を増やしていこう)という意味)が基になっており、日赤本社・都道府県支部・赤十字施設で行った広報活動事例の共有や優秀事例の紹介など

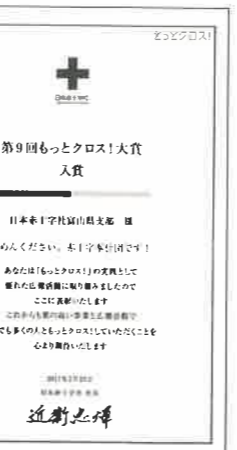
# 奉仕団とやま

発行  
赤十字奉仕団  
富山県支部委員会  
富山市飯野26-1  
日本赤十字社富山県支部内  
電話(076)451-7878  
年1回発行

を目的に毎年2月に開催されています。最終審査には近衛忠輝社長が出席し、優秀事例5点のプレゼンテーションが行われます。そのプレゼンテーションを聞いた全国の広報担当職員や外部審査員など約200名が投票し、その年

## 「在宅ひとり暮らし 高齢者訪問活動」が、 日本赤十字社から 表彰されました

のグランプリが決定します。今年、113作品のエントリーがありました。当県の高齢者訪問活動は、事前に行われたWeb審査で最終審査に進むことができませんでしたが、当県を含む入賞事例15点によるポスター発表が同



日に行われ、岡崎智子県支部委員会委員長と塚本主任が参加しました。ポスター発表後、参加者からは「すべての地域奉仕団が行っている、素晴らしいですね。」や「この発表を聞くために来ました。当県での参考にします。」などの声寄せられました。

富山県赤十字奉仕団は、昭和52年(1977年)、日本赤十字社創立100周年記念事業として、これから高齢化社会を迎えるに当たり在宅ひとり暮らし高齢者訪問活動を全国に先駆けて実施しました。

今ではすっかり地域に定着した「心のふれあい活動」ですが、活動とともにその継続性も認められ、今回このような賞をいただいたことは、奉仕団の誇りであります。

これからは、奉仕団員、職員、地域の方々ともっともっとクロスし、赤十字の事業及び活動を推進することが私たち奉仕団に与えられた役割だと決意を新たにしました。(岡崎 記)

## わたしたちの基本原則

- わたしたちは、世界中の赤十字社が共有する7つの原則にしたがって行動します。
- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
  - 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
  - 中立：すべての人の信頼を得るため、いさゝいの争いに加わりません。
  - 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
  - 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
  - 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
  - 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

## 日本赤十字社創立140周年

平成29年(2017年)に、日本赤十字社は創立140周年を迎えます。日本赤十字社は、国際赤十字組織の一員として、1965年にオーストラリア・ウイーンで開催された第20回赤十字国際会議で宣言された「国際赤十字・赤新月運動の基本原則」(赤十字基本7原則)に従って活動を行っています。

## 平成28年度富山県支部扱い義援金・救援金

※金額及び件数はH29.1.31までの累積

国内	●東日本大震災義援金	75件	1,603,724円
	●平成28年熊本地震災害義援金	1,181件	186,290,201円
	●平成28年台風10号等災害義援金	13件	325,859円
	●平成28年鳥取県中部地震災害義援金	5件	62,783円
●平成28年新潟県糸魚川市大規模火災義援金	7件	80,578円	
海外	●中東人道危機救援金	1件	3,000円
	●2016年イタリア中部地震救援金	5件	153,638円
	●2016年ハイチハリケーン救援金	2件	51,561円
	●無指定海外救援金	1件	3,561円
	●平成28年度NHK海外たすけあい救援金	712件	6,396,763円
	<b>合計</b>	<b>2,003件</b>	<b>194,972,668円</b>

(郵便振替を利用され、日赤本社や被災地支部に直接送金された分の件数・金額は、この記載に含まれておりません)



表彰を受けられた方々  
おめでとうございます。  
今後益々の活躍を  
ご期待申し上げます。  
(敬称略)

### 業務功勞

- 金梓感謝状(10年継続)
  - 土肥 靖子(新庄北赤十字奉仕団(富山市))
  - 長谷 芳子(安野屋赤十字奉仕団(富山市))
- 銀梓感謝状(5年継続)
  - 岡崎 智子(八尾町赤十字奉仕団(富山市))
  - 中村ひとみ(白菊赤十字奉仕団(富山市))
  - 松林 富子(南砺市城端赤十字奉仕団)
  - 吉田 悦子(天山赤十字奉仕団(富山市))

### 社資功勞

- 紺綬褒章
  - 木村 昭二(福岡町赤十字奉仕団(高岡市))
  - 西野 優子(姥川赤十字奉仕団(富山市))
- 厚生労働大臣感謝状
  - 浅香 昭次(高岡南部丸美赤十字奉仕団)
- 日本赤十字社社長感謝状
  - 西野 優子(姥川赤十字奉仕団(富山市))
  - 山下 和夫(伏木赤十字奉仕団(高岡市))
  - 高岡南部丸美赤十字奉仕団
- 金色有功章
  - 浅香 昭次(高岡南部丸美赤十字奉仕団)
  - 木村 昭二(福岡町赤十字奉仕団(高岡市))
  - 高野 光子(伏木赤十字奉仕団(高岡市))
  - 高橋 睦子(伏木赤十字奉仕団(高岡市))

### 銀色有功章

- 新家 町子(立野赤十字奉仕団(高岡市))
- 塩原 多み(舟橋村赤十字奉仕団)
- 花木と志子(婦中赤十字奉仕団(富山市))
- 高岡中央赤十字奉仕団

※社資功勞につきましては、赤十字奉仕団員並びに奉仕団幹旋の受章者のうち、ご承諾をいただいた方のみ掲載しております。(H28・2・1~H29・1・31)



富山を象徴する立山連峰。雪をまとった連峰が青空にくっきりとそびえ立つ雄大な姿を見ると、幸せを感じます。富山県に住んでいて良かった。奉仕活動を仲間と一緒に出来ることを本当に嬉しく思います。

今年度の紙面には、活動推進奉仕団報告や奉仕団研修会の感想、また、富山県の奉仕団が行う在宅ひとり暮らし高齢者訪問活動が「もっとクロス！大賞」で入賞したという記事が掲載されました。他県にはない素晴らしい活動であることが認められたのではないのでしょうか。今後の奉仕団活動の励みになります。また、発行にあたり、ご寄稿いただきました皆さまに心からの感謝とお礼を申し上げます。(武田記)

- 編集委員
- |       |       |
|-------|-------|
| 山谷美津子 | 高村 浩之 |
| 土肥 靖子 | 深川 紀子 |
| 武田東洋子 | 尾島美恵子 |
| 長谷 芳子 | 森越美智子 |
| 高原 安晴 | 塚本亜由美 |

### 今こゝで赤十字奉仕団とは

赤十字奉仕団富山県支部委員会  
名誉委員長 山下 和夫



つい先日まで赤十字奉仕団の県委員長として機関紙「奉仕団とやま」の編集に携わっていたように思いますが、すでに10年近くの歳月が流れてしまいました。自分自身が所属している伏木奉仕団の委員長は4年前に交代しましたが、何かと関わりつつ奉仕団員を続けております。今ここで思うこと、そして県下の団員諸兄弟には是非望み期待することについて、触れてみたいと思います。

「奉仕団とやま」が毎年発行され団員のもとに届いていますが、これにならって各奉仕団でも地域のニーズに合った団員会報を発行されてはいいかがでしょうか。皆さんがそれぞれ奉仕団の活動として取り組んでいる事柄を地域の方々に理解してもらえらると思えますし、赤十字のPRを通して団員の研鑽にも繋がると思います。皆さんが取り組んでいる海外たすけあいや国内外の義援金の街頭募金などは、地域の人たちに共感を呼び、団員としての誇りを持つことに繋がることではないでしょうか。

今ここで奉仕団として、ぜひ知っていただいで、達成してもらいたいことに社費の募集があります。友人や知人に赤十字のことなどを話していただける団員になり、ぜひ社費納入に結び付けてください。社費募集は「一人でも出来る赤十字ボランティア」です。

これらのお話を踏まえ、今、奉仕団には大きな課題があります。それは、団員の高齢化です。出来ることならば、40代50代の方を勧誘し、団員を増員して下さい。赤十字を愛してくれそうな人、既存の団員と協調して仲間作りに参加できる知性豊かな人が望ましいこととは、云々迄ありません。赤十字は、「限らない人間愛」から始まっています。全国に誇り得る富山県の赤十字奉仕団の益々の隆盛を祈念いたします。

### 山下和夫氏 プロフィール

- 伏木赤十字奉仕団(高岡市) 昭和57年4月〜平成26年4月 委員長
  - 赤十字富山県支部委員会 平成26年5月〜現在 名誉委員長
  - 赤十字富山県支部委員会 平成5年4月〜平成23年4月 委員長
  - 赤十字奉仕団中央委員会 平成23年4月〜現在 名誉委員長
  - 赤十字奉仕団中央委員会 平成19年4月〜平成21年3月 委員長
  - ※全国217万人の奉仕団員のトップとして、奉仕団の活動強化要綱の作成や団員の意識高揚、組織の充実強化などに尽力。
- 奉仕団活動の他、県支部評議員や有功会役員として支部の運営と赤十字の財政基盤である社員増強を行うとともに、平成22年2月からは、日赤の最高議決機関である代議員会の一員として活躍中。

### 平成29年度県支部奉仕団事業計画

- 4月 赤十字奉仕団富山県支部委員会(富山市) 青年赤十字奉仕団全国協議会(本社)
- 5月 赤十字奉仕団富山県支部委員会(本社) 奉仕団街頭PR活動(広報紙・ティッシュ配り) 在宅ひとり暮らし高齢者訪問(BOXティッシュ) 全国赤十字大会(東京都)
- 6月 赤十字奉仕団中央委員会(本社) 青年赤十字奉仕団第3B代表者会議(富山市) 赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会(支部) 赤十字奉仕団研修部会(支部)
- 7月 愛の血液助け合い運動月間 赤十字奉仕団研修会(富山市)
- 8月 赤十字ボランティア・リーダー研修会(本社)
- 9月 富山県総合防災訓練(富山市)
- 10月 赤十字奉仕団第3B委員長会議(福井県) 赤十字奉仕団研修旅行(石川県)
- 11月 赤十字奉仕団委員長会議(立山町)
- 12月 NHK海外たすけあい 赤十字奉仕団とやま編集委員会
- 1月 赤十字奉仕団支部指導講師研修会(本社)
- 2月 赤十字奉仕団研修部会役員会(支部)
- 3月 赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会(支部) 赤十字奉仕団とやま(第33号)発行

\*第三B(第三ブロック)富山・石川・福井・岐阜・長野・愛知・静岡・三重 8県で構成)

### ボランティア保険について

日赤県支部が加入しているボランティア保険について、お知らせします。不慮の事故(大小に関わらず)の際は、所属奉仕団委員長を通じ、市町村の日赤担当者や県支部へ報告して下さい。

- 保障内容
  - ・他者への賠償金 5億円
  - ・自身の傷害 死亡・後遺障害 1,254万円
  - 入院一日ごと 6,300円
  - 通院一日ごと 4,200円
- 保障となる活動
  - ・日本国内における奉仕団活動(所属奉仕団及び日赤県支部が認めるもの)
  - ※会議や研修会も含まれます。海難、山岳救助活動は対象となりません。

### 平成29年度に 周年記念を迎える奉仕団

赤十字奉仕団活動を地域に根付かせたご苦労を思い、後輩につなげていくことを願いながら、節目の年を皆でお祝いをいたします。

- 四〇周年 大沢野赤十字奉仕団 朝日丘赤十字奉仕団 中田赤十字奉仕団 南砺市福野赤十字奉仕団 東赤十字奉仕団 愛五赤十字奉仕団 富山赤十字看護学生奉仕団
- 三〇周年 山室赤十字奉仕団

もらっていたことを聞いていたので、私たちがこうだったのかなあと思いました。母への感謝の思いで、また涙が溢れました。

舞鶴港は、昭和20年10月から昭和33年9月までの13年間の長きにわたり、旧ソ連や中国などの大陸からの引揚者60万人が上陸し、その使命を果たしました。展示されていた写真の隣には、数隻の引揚船のミニ模型も展示されていて、この中の一隻に自分も乗船していたのかも思いを巡らせました。

私は、母に守られ、その守られた命は、いま奉仕団員の一員として戦争の悲惨さや平和の尊厳を実感しています。そして、次の世代に語り継ぐことも心に誓いました。

研修旅行は、私にとってとても感慨深いものとなりました。感謝です。ありがとうございました。

### 平成二十九年度の研修旅行ご案内

左記の研修旅行が、1月12日の常任委員会決定されました。詳細・募集は、後日各委員長にお知らせします。

10月12日(木) 実施予定  
石川県・能登の旅  
(日帰り) 80人全行程バス

### 研修旅行記

#### 「舞鶴引揚記念館」を 見学して

山室赤十字奉仕団  
委員長 島田 智恵

平成28年度の富山県赤十字奉仕団の研修旅行の旅程表に「舞鶴引揚記念館」の見学があり、思わず亡き母が時々語り聞かせてくれたことが脳裏に浮かんできました。

私は昭和16年、旧満州国奉天市に生まれました。終戦後、遼寧省口島から日本への引揚船に乗ったということだけで、どこの港に着いたのか、京都なのか博多なのか分からないままでした。ひょっとしてこの舞鶴で何か分かるのではないかと思うと、胸の鼓動が高鳴りました。

奉天での家族は、平穩に、優しい中国の人たちと暮らしていました。それが一転。太平洋戦争が始まると、父は戦場へ。そして終戦。引揚のときには父は生死不明で、病気になるまで、の弟は、医師が戦地に行っていた



富山発バス



高岡・砺波発バス

「回想法」が効果的であると言われている。昔を思い出すことで前頭葉の血流が増え、脳が活性化するのでそうです。また、頭と身体を同時に使うトレーニングも非常に有効だと聞いています。

施設の担当者からは、私たちのさまざまな活動が、入所者の皆さんの楽しみやハビリティに役立っていると聞き、

近年、認知症の予防や罹患後のケアに「回想法」が効果的であると言われている。昔を思い出すことで前頭葉の血流が増え、脳が活性化するのでそうです。また、頭と身体を同時に使うトレーニングも非常に有効だと聞いています。

施設の担当者からは、私たちのさまざまな活動が、入所者の皆さんの楽しみやハビリティに役立っていると聞き、

私たちは、約15年前から地元の方の募金呼びかけと「NHK海外たすけあい」の募金呼びかけを行っています。四方小学校は、長きにわたって青少年赤十字に加盟している学校のひとつです。奉仕団と小学校が一緒に活動を行う中で、先生方との会話から、近年は自然災害が多く、避難所での非常食に対する関心が寄せられました。この声を聞き、早速県支部から活動推進奉仕団の指定を受け、学校との打ち合わせの結果、夏休み中の登校日に炊き出し訓練を実施することになりました。

私たちは、約15年前から地元の方の募金呼びかけと「NHK海外たすけあい」の募金呼びかけを行っています。四方小学校は、長きにわたって青少年赤十字に加盟している学校のひとつです。奉仕団と小学校が一緒に活動を行う中で、先生方との会話から、近年は自然災害が多く、避難所での非常食に対する関心が寄せられました。この声を聞き、早速県支部から活動推進奉仕団の指定を受け、学校との打ち合わせの結果、夏休み中の登校日に炊き出し訓練を実施することになりました。

**青少年赤十字と炊き出し訓練**

四方赤十字奉仕団(富山市) 委員長 南 弘



嬉しく思っています。今や4人に1人が65歳以上という社会です。誰もが元気で長生きするために、奉仕団として何が出来るかを考えることも、私たちが自身も生きがいをもつて行動する必要があると思っています。

**活動推進奉仕団報告**

元気で長生きするために  
—ある老人保健施設での活動—

福岡町赤十字奉仕団(高岡市) 委員長 吉國 延子

町内にある老人保健施設で、毎月1回、入所者の皆さんと共に歌をうたつて2年が過ぎました。奉仕団員を中心にコーラス仲間や保育園児など、毎回10人程度が参加し、歌のほか、舞踊、脳トレ、軽体操などを行っています。入所者の中には、準備してある歌詞カードを見ないで上手に歌う方もおられます。また、優雅な日本舞踊には感嘆の声が上がります。保育園児に対しては、「待ったよ」と手を取って、

今日のは午前10時から、事前に立てた計画表に基づき児童34名を4班に分け、奉仕団のリーダーによる指導のもとハイゼックスを使ったカレーライスと山菜ご飯を作りました。ハイゼックスを大釜に入れた後、炊き上がるまでの約30分間は、県支部の健康生活支援講習を受講し、新聞紙のスリッパ作りや風呂敷のリュックサック作りを行いました。ハイゼックスが炊き上がると、みんなで試食です。

ハイゼックスで非常食を作る貴重な体験を通じ、その中で、「空気を抜くのが難しかった」「非常食が美味しかった」といった声や、「災害時を考えて、好き嫌いを無くす」といった決意が聞かれました。また、スリッパ作りとリュック作りをお母さんに教えた児童もいたようです。身につけた防災の知識を災害時に役立てたいとの児童の声を心強く思いました。



今後も地域や学校など連携し、奉仕団の活動を通じて地域に信頼され、期待される奉仕団でありたいと願っています。

**赤十字奉仕団結成状況**

全 国	地域赤十字奉仕団	2,123団	1,233,584人
	青年赤十字奉仕団	156団	6,993人
	特殊赤十字奉仕団	640団	34,773人
	計	2,919団	1,275,350人
富山県	地域赤十字奉仕団	53団	3,713人
	青年赤十字奉仕団	2団	79人
	特殊赤十字奉仕団	7団	175人
	計	62団	3,967人

**赤十字奉仕団 富山県支部委員会 役員候補者**

平成29年1月12日開催の常任委員会にて、支部委員会の役員候補者が選出されました。(平成29～30年度)

委員長	岡崎 智子(富山)
副委員長	野村 綱子(高岡)
委員	深川 紀子(新川)
	北田 祥子(砺波)
	高村 浩之(特殊)
	土肥 靖子(富山)
	掃部 喜巧(高岡)
	谷 悦子(新川)
	武田 典子(砺波)

4月26日開催の支部委員会で承認される予定です。

**《我が団の紹介》**

**上市町赤十字奉仕団**

委員長 深川 紀子

当団は、昭和56年に発足し、今日に至っています。年間の活動内容として、県下で行われる5月の赤十字運動月間のPRやNHK海外たすけあい募金の呼びかけ、80歳以上の在宅ひとり暮らし高齢者訪問などを行っています。その他にも、当団独自の活動として、月1回の施設入所者の買物補助や年3回の施設でのボランティア(七夕の会・園祭・納涼祭の手伝い)、福祉ふれあいフェスティバルでの豚汁作り、中高ボランティアスクールへの参加協力、毎年行われる防災訓練での炊き出し(400食程度)を、恒例の活動として行っています。団員研修(救急法や炊き出し)も年1回実施し、ボランティア関係の研修会や講演会にも出席し、活動の参考になるよう努めています。

当団は、現在31人の少人数で、団員も年々高齢化し、常時活動できる人は15〜17人ほどのため、団員増加に対する取り組みが課題となっています。町報に団員募集の記事を載せてもらったりしていますが、なかなか効果が現れませんでした。そんな中、上市町が行ったボランティア養成講座を受講した2人の方から奉仕団への入団申し込みがあった時は、本当に嬉しく思いました。今後も、「団員が楽しく」をモットーに、活動をしていこうと思っています。



**十二町赤十字奉仕団(氷見市)**

委員長 森 越 美智子

こんにちは、十二町奉仕団です。十二町は高岡市との境、国道160号・海老坂交差点を左折し、山間地を抜けた田園地帯の中程にあります。当団は、平成15年10月に婦人会組織を以って結成されました。以来、多くの方々のご指導とご協力を頂きながら、「赤十字のこころ」を持って活動を行っています。

活動内容としては、6項目の県統一活動を実践しながら、地域への浸透を図るべく努力を続け、地区防災訓練においては「炊き出しは赤十字奉仕団に任せておけば大丈夫。よろしく頼む。」との言葉を各方面より頂けるようになりました。昨夏の訓練では、日赤本社が作った非常食のレシピ本を参考に試行錯誤をして「きな粉とあんこの2食おはぎ」と「炊き込みごはん」を250食作り、好評を得ました。高齢者感謝の会では、手作りのちよこっとプレゼント(赤と金の祝い鶴など)をお渡ししています。他には、「花と緑の美しい地域にしよう」と花苗3千株を育て、老人施設・学校・各種ボランティアさんに配布し、バス停や公民館、空き地や家の庭先で初夏から晩秋までを美しく彩っています。

海抜ほぼ0m、河川の氾濫、背後が急傾斜崩壊区域、志賀原発まで30km+aにある当地区に大規模災害が起きないことを祈りながら、皆様方のご支援とご協力を頂き災害時に役立つ訓練をしていきたいと思っています。



**富山県アマチュア無線赤十字奉仕団**

委員長 高村 浩之

当団は、平成13年10月に結成しました。アマチュア無線愛好者で組織され、県支部に統制局を設けて、災害時に赤十字が行う業務を円滑に遂行させるため、無線通信技術を活かした活動を展開しています。

活動内容としては、毎年秋に開催する富山県総合防災訓練協力として、会場地域のアマチュア無線クラブや国内各地にあるアマチュア無線奉仕団との通信訓練を行っています。各クラブの得意分野による通信が行えるため、毎年楽しみにしています。また、1月に開催する富山県非常無線通信訓練コンテストに参加して厳冬の通信訓練を行っています。今年も開催から40回目となり、訓練の継続により、県内の目的地への周波数等の情報を蓄積しています。

今まではアマチュア無線波のみの通信が中心ですが、近年、インターネット網の充実により、電離層の代わりにインターネットを使用することによって安定した通信確保が可能となりました。

しかし、東日本大震災クラスの災害となると安定した通信の確保が難しい状況はかわりません。今後は県支部にアマチュア無線機器を充実し、県内のアマチュア無線愛好者に当団の活動をPRし、団員の活性化を図っていききたいと思います。



皆様のご家庭には、非常持ち出し袋は常備されていますか？水・食料・毛布・薬・懐中電灯・ラップ・ティッシュ・現金・ビニール袋等々、家族構成でも持ち物は変わります。



近年、国内の自然災害は、規模・回数共に増加しています。富山は地震が少ない県ではありませんが、熊本も同じように地震の少ない県であったと聞いています。『絶対安全』ということはない、どの都道府県にも言えません。いつまでも「対岸の火事ではない」という危機感を持って、災害と向き合う姿勢が大切だと強く感じます。

### 地域の奉仕団とともに 青少年赤十字メンバーが 初めての炊き出し体験

水深1、000mの富山湾。その富山湾の沿岸部から約100mの場所に位置する射水市立射北中学校では、東日本大震災での津波被害を教訓に平成24年度には屋上への避難階段を新たに設置するとともに、より迅速に災害情報を収集することを目的として緊急地震速報受信システムを導入するなど積極的に「防災」に取り組んでいます。また、平成27年度からは、日赤本社が指定する青少年赤十字（JRC）の防災教育モデル校としても活動しています。

6月25日、支部と射水市内の下村・射水市大江・新湊中央各奉仕団の協力のもと射北中学校の生徒・保護者・教職員・地域住民など約400名が、炊き出し体験を行いました。支部と奉仕団、JRCが一体となって防災に関する取り組みを行うのは、初めてのこ



この動きにとっても感動しました。被災地では、大きな作業指示はあっても、細かい指示を出すのはリーダーの負担も大きく大変なことでしょう。奉仕団員は指示を待つのでなく自分の出来る仕事を始める。これは、何回も何回も研修、訓練を繰り返す上で自然に身につけているのだと感じ、私も慌てて右にならえて作業に参加しましたが、まだまだでした。「誰かが何とかしてくれ」どこかにこんな考えがあったのだと思います。まず、自分の出来ることをする。こうした先輩方の姿を見ながら学ぶ良い機会だったと有難く感じています。

とです。また、この日は、炊き出しだけでなく、大学教授による講演会や地元消防署による煙体験、放水体験なども行われ、生徒だけでなく保護者や地域住民と一緒に学ぶことで、家庭や地域で災害について考えるきっかけとなりました。

参加者からは、「実際にハイゼックスでお米を炊いてみて、百人以上のご飯を一度に作れることに驚いたし、想像以上に美味しかった」「避難所において、こんなふうに温かい食事をもらったら嬉しいと思う」といった声が聞かれました。



今回のように、支部・奉仕団・JRCが一体になって防災について取り組み、「いのちと健康を守る」日本赤十字社の活動の輪が地域全体に広まることを願っています。

富山県には10月29日～11月3日、マカオ青少年赤十字メンバーの2名が滞在し、10月29日～30日の2日間、十二町奉仕団（氷見市）の中田暢子さんに英語通訳としてご協力頂きました。中田さんは、四季防災館での災害体験や富山県赤十字血液センターの見学、県内高校生との交歓会や茶道体験に一緒に参加され、特に交歓会では学生同士が話しやすいよう自ら場を盛り上げる等、交流の架け橋として活躍されました。



### 研修会（炊き出し）に参加して

愛五赤十字奉仕団 川越 弘美

皆様のご家庭には、非常持ち出し袋は常備されていますか？水・食料・毛布・薬・懐中電灯・ラップ・ティッシュ・現金・ビニール袋等々、家族構成でも持ち物は変わります。

6月25日、日赤富山県支部で炊き出しを含む研修会がありました。私は奉仕団に入ってまだ日も浅く、初めての研修会参加となりました。会場では1グループ20名程度で4班に分かれての炊き出しスタートです。作業は一人一人が、自分の出来ること、すべき事を判断し、誰にも割り振られずに行いました。私は

この動きにとっても感動しました。被災地では、大きな作業指示はあっても、細かい指示を出すのはリーダーの負担も大きく大変なことでしょう。奉仕団員は指示を待つのでなく自分の出来る仕事を始める。これは、何回も何回も研修、訓練を繰り返す上で自然に身につけているのだと感じ、私も慌てて右にならえて作業に参加しましたが、まだまだでした。「誰かが何とかしてくれ」どこかにこんな考えがあったのだと思います。まず、自分の出来ることをする。こうした先輩方の姿を見ながら学ぶ良い機会だったと有難く感じています。



富山・新川・特殊地区奉仕団対象  
6月25日開催 於 日赤富山県支部  
高岡・砺波地区奉仕団対象  
7月7日開催 於 高岡スポーツコア

この動きにとっても感動しました。被災地では、大きな作業指示はあっても、細かい指示を出すのはリーダーの負担も大きく大変なことでしょう。奉仕団員は指示を待つのでなく自分の出来る仕事を始める。これは、何回も何回も研修、訓練を繰り返す上で自然に身につけているのだと感じ、私も慌てて右にならえて作業に参加しましたが、まだまだでした。「誰かが何とかしてくれ」どこかにこんな考えがあったのだと思います。まず、自分の出来ることをする。こうした先輩方の姿を見ながら学ぶ良い機会だったと有難く感じています。



## 豆知識のコーナー

### 災害時の炊出し

#### 「食中毒予防3原則」

富山赤十字病院 感染管理認定看護師 亀山 礼子

食中毒予防には、食中毒を引き起こす食中毒菌を①「持ち込まない」、②「菌を増やさない」③「菌をやっつける」の3原則があります。食中毒菌を「持ち込まない、つけない」ポイントには、正しい手洗いと清潔な調理器具の使用です。炊出しでは、といたお米と水、調味料をハイゼックスに入れる前に必ず手洗いをしましょう。流水で手洗いができない場合は、手指消毒アルコールで手を消毒する、清潔な手袋を使用することもよいでしょう。ジョウゴをペットボトル等で代用する場合は、必ず汚れを取り除き清潔な状態で使用してください。また、ハイゼックスの口を輪ゴムで絞めること、中の空気をしっかりと抜くことは、炊飯と袋の破損を防ぐために大切です。

次に「菌を増やさない」ポイントは温度管理です。ハイゼックスは長期保存ができますが、季節や環境によって異なります。開封したらすぐに食べていただくよう説明し、袋に破損があった場合は被災者の方に提供しないでください。



### 奉仕団員が通訳として大活躍！ マカオ青少年赤十字メンバーが 来県しました

国内外の青少年赤十字メンバーが交流を深め、「国際理解・親善」を促進することを目的として、平成28年度青少年赤十字国際交流事業が開催されました。

富山県には10月29日～11月3日、マカオ青少年赤十字メンバーの2名が滞在し、10月29日～30日の2日間、十二町奉仕団（氷見市）の中田暢子さんに英語通訳としてご協力頂きました。中田さんは、四季防災館での災害体験や富山県赤十字血液センターの見学、県内高校生との交歓会や茶道体験に一緒に参加され、特に交歓会では学生同士が話しやすいよう自ら場を盛り上げる等、交流の架け橋として活躍されました。

### ボランティア（青年） 募集のお知らせ

【こんな方】  
1 ボランティアに興味のある方  
2 富山県内で継続的に活動できる方  
3 赤十字に興味がある方  
4 18歳～30歳の方  
（学生・社会人は問いません）

【活動について】①②どちらからでも可  
①富山県立乳児院  
場所/富山県立乳児院  
内容/抱っこ、遊び相手、洗濯物たたみ、庭の手入れ など  
時間等/平日週1回 10:00～11:00  
②このゆびとーまれ  
場所/特定非営利活動法人  
内容/話し相手、遊び相手  
外出のお手伝い など  
時間等/土日祝、長期休暇など 半日もしくは一日

今はまだ登録メンバーが数名です。一人一人に合った活動の仕方を考え、少しずつ活躍の幅を広げていきたいと思っています。まずはお気軽にお問い合わせください。【奉仕団担当 塚本】